

出題分析		
試験時間 60分	配点 60点	大問数 5題
分量 (昨年比較) [減少] 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化] 同程度 難化]	
<b>【概評】</b> 昨年度と同様に、誤箇所指摘問題 1 題と長文読解問題 4 題の計 5 題という構成。ただし試験時間が 90 分から 60 分に短縮されたことに伴い、全体的に分量が減少した。長文読解問題については、1 題あたりの本文が 900 語前後から 700 語前後に短縮され、設問数も 8 問から 5 問に減少した。設問の内訳は空所補充 2 問、語義選択 1 問、要旨選択 1 問、内容一致文選択 1 問に統一されている。また、例年解答の根拠が見つけ辛い問題が見受けられたが、今年度は取り組みやすくなった。依然として英文や選択肢の語彙レベルは高い傾向にあり、試験時間に対し分量も多いが、全体の難易度は昨年度よりやや易化したと言える。		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	誤箇所指摘問題	2～3 行の英文に引かれた 4 つの下線部のうち、誤りを含むものを指摘する問題。昨年度と同形式だが、設問数は昨年度の 10 問から 6 問に減少した。NO ERROR が選択肢にあるため取り組みにくい。品詞や時制といった基本的な文法知識で解けるケースも多い。落ち着いて取り組みたい。	標準
II	長文読解問題 「象徴としてのユニコーンとその変遷」	本文に情報量が多く、読みづらさを感じた受験生もいたかもしれない。問 1 の空所補充では、選択肢に難単語が含まれていたため、判断に迷った受験生が多かったと考えられる。その他の設問には特に紛らわしい選択肢は見当たらず、本文の内容を正確に把握できたかが得点を左右しただろう。	標準
III	長文読解問題 「国際機関の衰退と揺らぐ国際秩序」	国際機関や各国の要人、条約などの名称が多く登場するため、世界情勢や国際政治の背景知識があるかどうかで取り組みやすさに差が出た。問 1 の空所補充、問 3 の語義選択は比較的解きやすいが、それ以外の設問では慎重な判断が求められた。	標準

IV	長文読解問題 「人口減少時代の日本を支える外国人労働者」	馴染みのあるテーマであり、文章も比較的読みやすい。問2の語義選択 (antecedents) は文脈からの推測が難しく、語彙力が問われた。それ以外の設問には、特に紛らわしい選択肢は見受けられなかった。	やや易
V	長文読解問題 「先住民族によるクジラの法人化」	本文に固有名詞が多く、情報を整理して読み進める必要がある。問1~3は語彙レベルの高い単語が散見されたが、消去法で判断可能。問4は本文を正しく把握できていれば迷わず解答できる。問5の内容一致文選択は、他の大問と異なり、6つの選択肢から2つ選ぶ形式ではなく、4つの選択肢から1つ選ぶ形式であった。本文の該当箇所がほぼそのまま選択肢になっていたため、確実に得点したい問題である。	標準

#### 合格のための学習法

長文読解問題で多く出題される本文中の単語の意味に近い語を選ぶ問題は、選択肢自体が難単語の場合がある。推測に頼っては解答できないことがあるので語彙力強化が必要である。また、全体の読解量が多いため、主題と論理展開を迅速に掴む練習が必要となるだろう。内容一致文選択問題では正しい選択肢を複数選ぶ問題が出題されているので、過去問演習などを通じて慣れておきたい。大問Iの誤箇所指摘問題では難解な語法の問題が出題されることもあるが、構文解釈によって正答できる問題で確実に得点することが合格への近道だろう。